

平成25年度 和歌山県文化功労賞

た き はる こ 多 紀 治 子

住 所：和歌山県和歌山市
出 身 地：和歌山県和歌山市
生 年：大正7年

■現在
和歌山県歌人クラブ名誉会長

◎業績及び経歴

大正7年和歌山市に生まれる。昭和15年3月に東京女子高等師範学校(現お茶の水大学)で尾上柴舟に師事し同校文科卒業後、和歌山県立女子師範学校、和歌山県立桐蔭高校、和歌山県立向陽高校等で教鞭をとる。県立高校教諭退官後も、智辯学園和歌山高校非常勤講師として指導にあたり、63年間もの長きにわたり教壇生活を送った。

氏の父、多紀仁之助は、旧制和歌山中学校(現桐蔭高校)の生徒らが精神的支柱とする漢文「和中魂」の著書として知られ、同校の校歌「海南ここに幾春秋…」の作詞者でもある。このような漢学者のもとで育った氏は、自然と、古事記、万葉集、源氏物語等に精通していった。特に学生の頃から始めた短歌で、その力を大いに発揮し、歌集「白き花朵」「五葉樹」「黄水仙」を出版した。

また、自ら短歌を詠むだけでなく、朝日新聞和歌山歌壇の選者として、出詠歌の選考に携わり、和歌山県歌人クラブや和歌山文化協会文芸部に所属、出詠歌の選考、歌評等を行ってきた。昭和25年に創刊された歌誌「林間」では、支社の代表として、毎月、出詠、歌評、歌論を行ってきた。

さらに、和歌山県内の短歌会に所属する歌人等を中心に構成される和歌山県歌人クラブにおいては、平成12年度から顧問に、平成20年度からは名誉会長に就任し現在に至っている。

95歳を超えた今も、短歌を詠み続け、長年にわたり、和歌山県における文化の普及と振興に寄与してきた功績は誠に多大である。